

概況調査結果概要

1 調査内容

(1) 文献及びヒアリング調査

漂流・漂着ゴミに関する特性を、「ゴミに関する特性」と「漂着場の特性」の2つに大別し、それぞれに関係する要素について調査するため、既存データ及び情報の収集・整理、関係部局及び関係組織へのヒアリングを行っている。調査項目を表 1に示す。

(2) 航空機調査

ゴミの漂着状況を確認するため、対馬の全域を対象として航空機より写真撮影を行った。撮影高度は約 350m で、20～30cm のゴミの識別が可能である。撮影した写真を用いてゴミの量を「多い」、「少ない」、「ほとんどない」の3段階で評価し、地図上に表現する。

2 調査対象地域

- ・石川県の本土側全海岸

3 調査結果概要

3.1 文献及びヒアリング調査

3.1.1 ゴミに関する特性

(1) 過去の漂着ゴミの実態調査

調査対象地域において、過去 5 年程度の期間中における漂流・漂着ゴミに係る清掃活動（クリーンアップ活動）もしくは調査事例について収集・整理した結果を表 2に示す。4 件の事例が確認できた。

(2) 漂着ゴミの回収処分体制の状況

調査対象地域を含む県内において漂流・漂着ゴミに係る回収処分を行う事業等の事例について、現在、収集中である。表 3に示す形式で整理する予定であるが、現時点では事例がない。

3.1.2 漂着場の特性

漂流・漂着ゴミが流れ着く海岸線に固有な特性として、「漂着のメカニズムに関する条件」、「海岸の価値」及び「社会条件」の3つの視点から地域の特性について、収集・整理した情報を表 4に示す。

表 1 漂流・漂着ゴミに関する要素と必要な情報

大項目	中項目	小項目	細目	必要な情報	
ゴミに関する特性	実態調査	調査主体、組織	連携体制	主催者、参加者、市町村、NGO、ボランティアの役割	
			各種手配	地元住民、漁業者との協力関係 必要資材の品目、調達方法、費用	
		調査方法		コードラート法、写真撮影	
		調査結果	ゴミの総量及び種類別量	重量、容量、重量/面積(距離)等	
			発生源	国内、国外	
		処分・処理方法	リサイクル	リサイクルの有無と方法	
			現地処理	埋設、焼却、減容処理、その他	
			現地外処理	輸送方法(車両、船舶) 処分方法(焼却、埋設、その他)	
	その他	実施時における環境配慮	植生、昆虫などに対する保全対策		
	漂着ゴミの回収・処分体制	処分事業計画		処分事業計画の有無	
		清掃、回収、運搬、処分等に関する活動	連携体制	海岸管理者、市町村、NGO等、ボランティア、河川管理者、漁業者などの役割 地元住民との協力関係	
			各種手配	必要資材の品目、調達方法、費用	
		回収方法	人力、機械など		
		処分・処理方法	リサイクルの実施と方法		
現地処理(埋設、焼却、減容処理など) 現地外処理(受入可能施設) ・輸送方法(車両、船舶) ・処分方法(焼却、埋設など)					
その他	活動時における環境配慮	植生、昆虫などに対する保全対策			
漂着場の特性	漂着のメカニズムに関する条件	流況		海流、潮汐流、沿岸流、海浜流	
		潮位差		潮位	
		波浪		波高、波向	
		風況		風速、風向	
		地形	自然海岸	砂浜、干潟、岩礁	
			人工海岸	直立護岸、防災構造物、人工海浜	
			海岸線の形状	海岸の勾配 入り組み度、湾の向き	
		河川	河口	河口の位置 河口からの距離 河川流量	
		海岸の価値	自然的価値	貴重な生物	ウミガメの産卵場、貴重種、植生など
				貴重な地形、地質	鳴き砂、星の砂など
	国立公園等			国立公園等の有無	
	歴史・文化的価値		景観	景勝地	
			歴史・文化的遺産	神社など	
	アメニティ		自然とのふれあい、親水性	レジャー、散策など	
			文化、伝統	祭りなど	
		観光資源 レクリエーション	観光資源の有無 海水浴、潮干狩り、釣り、マリンスポーツなど		
	社会条件	海岸利用	港湾区域	港湾の位置	
			漁港	漁港の位置	
			防災(津波、高潮)施設	防災施設の位置	
		河川利用	流域人口	流域人口 流域市町村のゴミ処理量	
		管理		海岸管理者、河川管理者	
	漂着状況の確認	航空機調査		航空写真	調査範囲のゴミの漂着状況との比較

表 2(1) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

石川県羽咋市羽咋・滝海岸	
【清掃活動実施日】 平成 17 年 7 月 6 日、10 月 4 日、平成 18 年 3 月 22 日	【実施場所及び範囲】 羽咋市羽咋町千里浜海岸 1～2 列 4～6 区画 400～600 m ²
【活動の名称】 日本海・黄海沿岸の海辺の埋没・漂着物調査	【主催者及び後援者】 財団法人環日本海環境協力センター
【参加団体及び人数】 石川県廃棄物対策課・能登中部保健福祉センター、羽咋市環境安全課・建設課、羽咋郡市広域圏事務組合、珠洲市環境課(15,17,18)	【回収されたゴミの量】 合計 17,673.0 g、4,792 個

漂着ゴミの実態	実施体制の実態
回収ゴミ総容量： 回収ゴミ総重量：17,673.0 g 回収作業の範囲：1,500 m ² 回収ゴミの内訳：1,178.2 g/100 m ² (100%) <ol style="list-style-type: none"> 1.プラスチック類； 817.7 (69.4) 2.ゴミ類； 3.5 (0.3) 3.発砲スチレン類； 73.7 (6.3) 4.紙類； 3.2 (0.3) 5.布類； 56.5 (4.8) 6.ガラス陶磁器類； 174.3 (14.8) 7.金属類； 44.8 (3.8) 8.その他の人工物； 4.5 (0.4) 9.その他(自然物)； 発生源の内訳：17,673.0 g (100%) <ol style="list-style-type: none"> 1.国内； 16,297.0 (92.2) 2.国外； 1,376.0 (7.8) 	作業に要する連携体制： <ol style="list-style-type: none"> 1.市町村の関与； 2.民間団体の関与； 3.民間企業の関与； 4.ボランティアの関与； 5.地元住民の関与； 6.地元学生の関与； 7.漁業者の関与； 8.その他； 回収に要する資材の手配： <ol style="list-style-type: none"> 1.資材品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担； 回収に要する機材の手配： <ol style="list-style-type: none"> 1.機械品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担；
ゴミ処理の実態	
現地処理量： <ol style="list-style-type: none"> 1.焼却； 2.埋設； 3.再利用； 4.減容化； 現地外処理量： <ol style="list-style-type: none"> 1.搬出先； 2.搬出方法； 3.搬出量； 4.処理方法； 	回収に要する人材の手配： <ol style="list-style-type: none"> 1.役割分担； 2.作業主体； 3.募集方法； 4.手配者； 5.経費負担；
環境配慮事項：	

石川県羽咋市羽咋・滝海岸

【清掃活動の概要】

情報出典：「海辺の漂着物調査報告書 2005年度版」（財団法人環日本海環境協力センター）

表 2(2) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

石川県羽咋市羽咋・滝海岸	
【清掃活動実施日】 平成 17 年 7 月 6 日 平成 18 年 6 月 27 日、8 月 28 日、11 月 9 日	【実施場所及び範囲】 羽咋市羽咋町千里浜海岸
【活動の名称】 クリーンアップキャンペーン	【主催者及び後援者】 財団法人環日本海環境協力センター
【参加団体及び人数】 羽咋市環境安全課・建設課、羽咋郡市広域圏事務組合、石川県廃棄物対策課・能登中部保健福祉センター(15)(16,88,15)	【回収されたゴミの量】 不明

漂着ゴミの実態	実施体制の実態
回収ゴミ総容量： 回収ゴミ総重量： 回収作業の範囲： 回収ゴミの内訳： 1.プラスチック類； 2.ゴミ類； 3.発砲スチレン類； 4.紙類； 5.布類； 6.ガラス陶磁器類； 7.金属類； 8.その他の人工物； 9.その他（自然物）； 発生源の内訳： 1.国内； 2.国外；	作業に要する連携体制： 1.市町村の関与； 2.民間団体の関与； 3.民間企業の関与； 4.ボランティアの関与； 5.地元住民の関与； 6.地元学生の関与； 7.漁業者の関与； 8.その他； 回収に要する資材の手配： 1.資材品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担； 回収に要する機材の手配： 1.機械品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担；
ゴミ処理の実態	
現地処理量： 1.焼却； 2.埋設； 3.再利用； 4.減容化； 現地外処理量： 1.搬出先； 2.搬出方法； 3.搬出量； 4.処理方法；	回収に要する人材の手配： 1.役割分担； 2.作業主体； 3.募集方法； 4.手配者； 5.経費負担；
環境配慮事項：	

石川県羽咋市羽咋・滝海岸

【清掃活動の概要】

情報出典：「クリーンアップキャンペーンREPORT」（JEAN/クリーンアップ全国事務局）

表 2(3) 岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

石川県羽咋市羽咋・滝海岸	
【清掃活動実施日】 平成 19 年 9 月 29 日	【実施場所及び範囲】 羽咋市羽咋町柴垣海岸「長手島」
【活動の名称】 学生クリーン・ビーチいしかわ大作戦 2007	【主催者及び後援者】 主催：クリーン・ビーチいしかわ実行委員会、 主管：学生クリーン・ビーチいしかわ実行委員会、 後援：羽咋市、（独）国立青少年教育振興機構 国立能登青少年交流の家、エフエム石川
【参加団体及び人数】	【回収されたゴミの量】 不明

漂着ゴミの実態	実施体制の実態
回収ゴミ総容量： 回収ゴミ総重量： 回収作業の範囲： 回収ゴミの内訳： 1.プラスチック類； 2.ゴミ類； 3.発砲スチレン類； 4.紙類； 5.布類； 6.ガラス陶磁器類； 7.金属類； 8.その他の人工物； 9.その他（自然物）； 発生源の内訳： 1.国内； 2.国外；	作業に要する連携体制： 1.市町村の関与； 2.民間団体の関与； 3.民間企業の関与； 4.ボランティアの関与； 5.地元住民の関与； 6.地元学生の関与； 7.漁業者の関与； 8.その他； 回収に要する資材の手配： 1.資材品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担； 回収に要する機材の手配： 1.機械品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担；
ゴミ処理の実態	
現地処理量： 1.焼却； 2.埋設； 3.再利用； 4.減容化； 現地外処理量： 1.搬出先； 2.搬出方法； 3.搬出量； 4.処理方法；	回収に要する人材の手配： 1.役割分担； 2.作業主体； 3.募集方法； 4.手配者； 5.経費負担；
環境配慮事項：	

石川県羽咋市羽咋・滝海岸

【清掃活動の概要】

情報出典：「学生クリーン・ビーチいしかわ大作戦 2007」募集案内

表 2(4) 岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

石川県羽咋市羽咋・滝海岸	
【清掃活動実施日】 平成 18 年 4 月 23 日、4 月 25 日、5 月 3 日 平成 18 年 7 月 8 日、7 月 16 日、8 月 19 日 平成 18 年 9 月 20 日	【実施場所及び範囲】 千里浜海岸・一ノ宮海岸・釜屋海岸・柴垣海岸、 柴垣海岸、滝港・柴垣漁港間の海岸、柴垣漁協 周辺、千里浜・釜屋・一ノ宮・柴垣海岸、柴垣 漁協周辺、千里浜海岸
【活動の名称】 クリーン・ビーチいしかわ	【主催者及び後援者】 クリーン・ビーチいしかわ実行委員会
【参加団体及び人数】 羽咋青年会議所・羽咋市職員・一般市民 (250)・羽咋市職員・一ノ宮地区住民・協同 組合羽咋市建設業組合・柴垣地区住民(300)、 金沢市兼六中学 1 年生(220)、羽咋漁協(44)、 柴垣漁協(53)、羽咋ライオンズクラブ・羽 咋ロータリークラブ・協同組合・羽咋市建設業 組合・各地区住民(460)、柴垣漁協(51)、 石川県バス協会(200)	【回収されたゴミの量】 不明

漂着ゴミの実態	実施体制の実態
回収ゴミ総容量： 回収ゴミ総重量： 回収作業の範囲： 回収ゴミの内訳： 1.プラスチック類； 2.ゴム類； 3.発砲スチレン類； 4.紙類； 5.布類； 6.ガラス陶磁器類； 7.金属類； 8.その他の人工物； 9.その他(自然物)；	作業に要する連携体制： 1.市町村の関与； 2.民間団体の関与； 3.民間企業の関与； 4.ボランティアの関与； 5.地元住民の関与； 6.地元学生の関与； 7.漁業者の関与； 8.その他； 回収に要する資材の手配： 1.資材品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担；
ゴミ処理の実態	
現地処理量： 1.焼却； 2.埋設； 3.再利用； 4.減容化； 現地外処理量： 1.搬出先； 2.搬出方法； 3.搬出量； 4.処理方法；	回収に要する機材の手配： 1.機械品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担； 回収に要する人材の手配： 1.役割分担； 2.作業主体； 3.募集方法； 4.手配者； 5.経費負担；
環境配慮事項：	

【清掃活動の概要】

情報出典：「クリーン・ビーチいしかわ 2006 活動報告」（クリーン・ビーチいしかわ実行委員会）

表 3(1) 海岸漂着ゴミの回収処分事業に関する事例調査

石川県羽咋市	
事業・調査・計画の名称	
行政主管官庁	
事業実施主体	
計上予算額	
内容	


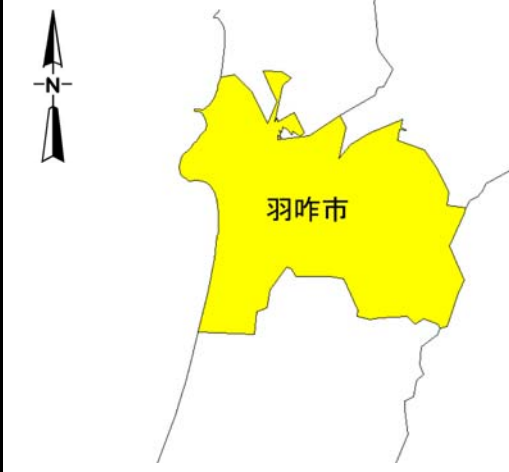
事業に係る役割分担	回収作業に係る役割分担
資材・機材・人材に係る役割分担	ゴミの処理・処分に係る役割分担
環境配慮事項：	

石川県羽咋市

【回収処理事業の概要】

情報出典：

表 4(1) 漂着場の特性

調査対象地域： 石川県羽咋市羽咋・滝海岸		経緯度:136° 44' 57" E 36° 55' 45" N				
概況調査範囲を含む当該県情報：石川県		モデル地域を含む当該市町情報：羽咋市				
 <p>【石川県庁】 ○所在地：金沢市鞍月1丁目1番地 〒920-8580 ○経緯度：136° 37' 32" E 36° 35' 40" N ○連絡先：076-225-1111（代表）</p> <p>○総面積：4,185.46km² ○宅地面積：18,039ha ○人口：1,174,026人（男 567,060 女 606,966） ○人口密度：280.50人/km² ○世帯数：424,585世帯 ○平均気温：14.3℃ ○平均湿度：73% ○年降水量：2,470.2mm ○平均風速：4.1m/s ○海岸延長：581.91km（自然海岸 210.97km） ○一級河川：2水系 ○二級河川：60水系 ○ごみ排出量：495,160t/年</p>		 <p>【羽咋市役所】 ○所在地：羽咋市旭町ア 200番地 〒925-8501 ○経緯度：136° 46' 55" E 36° 53' 26" N ○連絡先：0767-22-1111（代表）</p> <p>○総面積：81.96km² ○宅地面積：638ha ○人口：24,517人（男 11,566 女 12,951） ○人口密度：299.13人/km² ○世帯数：8,117世帯 ○平均気温：14.0℃ ○平均湿度：— ○年降水量：2,012.7mm ○平均風速：2.5m/s ○海岸延長：13.04km（自然海岸 11.05km） ○一級河川：— ○二級河川：7水系 ○ごみ排出量：11,080t/年</p>				
漂着のメカニズムに関する条件	流況 【136° E-37° N】	平均流速 (ノット) 最大流速 (ノット) 平均流向 (度)	1月 0.2 1.3 87	4月 0.3 0.9 28	7月 0.2 1.7 43	10月 0.2 1.7 4
	潮位差 【能登】 TP.-116.4cm	月平均潮位 (cm) 月最高潮位 (cm) 月最低潮位 (cm)	1月 136.9 193 97	4月 134.2 170 95	7月 157.8 178 9	10月 153.1 203 122
	波浪 【金沢】	最大有義波高 (m) 平均有義波高 (m) 最高波高 (m)	1月 6.96 2.18 9.77	4月 4.28 1.01 7.40	7月 2.61 0.65 4.46	10月 3.43 0.99 6.81
	風況 【金沢】	平均風速 (m/s) 最多風向 (-) 最大風速風向 (m/s-)	1月 5.0 SSW 23.9・WSW	4月 4.2 ENE 26.7・SW	7月 3.5 SW 18.0・S	10月 3.6 ENE 23.6・E
	海岸地形 【石川県】	自然海岸 (km) 半自然海岸 (km) 人工海岸 (km)	210.97 (泥浜 8.17 砂質 48.86 岩石 74.41 他 79.53) 125.59 (泥浜 0.00 砂質 74.44 岩石 39.99 他 11.16) 244.10 (埋立 35.40 干拓 2.70 他 206.00)			
	代表河川 【手取川】	幹川流路延長 (km) 流域面積 (km ²) 流量 (m ³ /s)	72 809 豊水 91.10 平水 55.22 低水 36.50			
海岸の価値	自然的価値	藻場干潟等分布 貴重な生物分布 自然公園等分布	情報図 1-1 " 1-2 " 1-3			
	歴史・文化的価値	史跡・名勝・天然記念物 自然景観資源 指定文化財	情報図 2-1			
	アメニティ	自然との触れ合い活動 観光資源・行事 海岸レクリエーション	情報図 2-2			
社会条件	海岸利用	護岸・構造物・海浜 港湾・漁港 産業施設等	情報図 3-1			
	河川利用	一級河川・二級河川 流域人口	情報図 3-2			
	地域管理	港湾区域 漁港区域 海岸保全区域	情報図 3-3			

○特記事項：

表 4(2) 漂着場の特性

<p>調査対象地域： 石川県羽咋市羽咋・滝海岸</p>	<p>経緯度：136° 44' 57" E 36° 55' 45" N</p>		
	<p>海岸の価値</p>	<p>社会条件</p>	
	<p>自然的価値</p> <p>能登半島国定公園 国指定天然記念物：気多神社社叢 県指定天然記念物：ケタノシロキクザクラ 県指定天然記念物：イカリモンハンミョウ</p>	<p>海岸利用</p> <p>滝港（地方港湾） 柴垣漁港（一種） 羽咋漁港（一種）</p>	
	<p>歴史・文化的価値</p> <p>いしかわの自然百景：柴垣海岸 いしかわの自然百景：気多神社社叢林</p> <hr/> <p>いしかわの自然百景：千里浜海岸 日本の渚百選：36 千里浜なぎさドライブウェイ</p>	<p>河川利用</p> <p>羽咋川（二級河川）本川 1、支川 13 流路延長 66,720 m 流域面積 374.6km²</p>	
<p>アメニティ</p> <p>自然百景めぐるみち：千里浜 UFO 神話のみち 自然百景めぐるみち：柴垣海岸ロマンのみち 能登千里浜国民休暇村 柴垣海水浴場 滝港アリーナ 健民サイクリングロード 長手島海浜公園 千里浜なぎさドライブウェイ 国立能登青少年交流の家 千里浜海水浴場</p>	<p>地域管理</p> <p>海岸保全区域：羽咋滝海岸 海岸保全区域：羽咋一の宮海岸 港湾海岸保全区域：滝港海岸（一の宮地区） 港湾海岸保全区域：滝港海岸（滝崎地区） 漁港海岸保全空域：柴垣漁港 漁港海岸保全区域：羽咋漁港</p> <hr/> <p>羽咋郡市広域圏事務組合 処理能力； リサイクルセンターごみ資源化施設 ・粗大 11t/日 ・資源化 10t/日 合計 21t/日 リサイクルセンターごみ燃料化施設 66t/日 埋立処分場 2012 年埋立終了</p>		

3.2 航空機調査

石川県における漂着ゴミの状況を確認するために、石川県本土側の全海岸を対象に航空機から写真撮影を行った。撮影は2007年8月24～25日に実施し、3,203シーンの航空写真を撮影した。高度約350mから撮影された写真では、20～30cmのゴミの識別が可能であり、流木、漁網・ロープ、ドリフトラインに沿ったゴミ、色つきの人工物などの分布を把握することができる(図1)。また、航空写真は、陸側から見通しが効かない浜やアクセスが困難な浜におけるゴミの漂着状況の把握にも効果的である。

ただし、流木などのゴミと基質(砂・岩石)の色が同系色の場合にはゴミと基質の判別が困難な場合がある。また、航空機からの撮影のため、適切な露出を設定することができず、白系の砂浜ではハレーションを起こすこともある。これらのようにゴミの判別が難しい地点及びゴミの量が多い地点については、現地踏査を行う予定である。

ゴミの漂着状況の評価は、最上川2005ゴミマップ(図2)において用いられている散乱ゴミの指標評価の手法を参考に、以下の3段階で評価することを検討中である。

- ・多 い : 最上川2005ゴミマップにおけるランク4以上(図2参照)
- ・少ない : 最上川2005ゴミマップにおけるランク2～3
- ・ほとんどない : 最上川2005ゴミマップにおけるランク0～1

最上川2005ゴミマップの作成において用いられた散乱ゴミの指標評価の手法を参考に、航空写真から得られた漂着ゴミの状況の評価した例を示す。今後、同評価方法を元に開発された海岸用の評価手法を参考に、最終的な評価方法を決定する予定である。

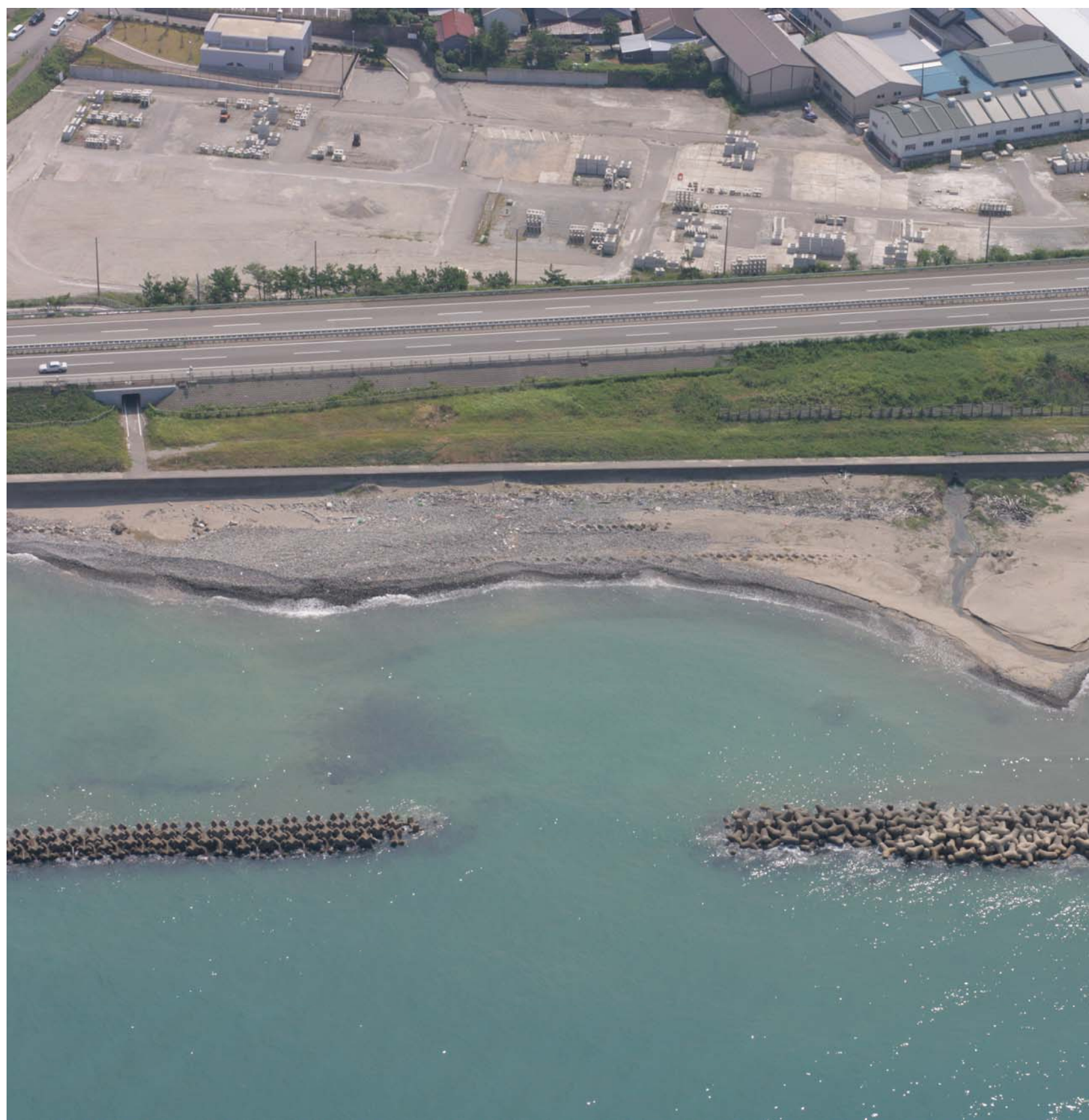


図 1 航空機写真のサンプル (石川県美川町 手取川の左岸、2007/8/25 撮影)

「最上川2005ゴミマップ」の発行と 「水辺の散乱ゴミの指標評価の検討」の経緯について

指標化の目的	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所では、NPO等の協力を得ながら、河川等の水辺における不法投棄ゴミ、散乱(漂着)ゴミなどの「水辺のゴミ」の状況を把握するため、客観的な「物差し」として指標評価の手法を検討してきました。 その目的としては、 ①各河川におけるゴミの現状と推移の把握 ②河川(海岸)愛護やアド(ダ)プトプログラム等の活動評価への応用 ③ゴミの減量に向けた地域への情報発信に活用 などが挙げられます。
これまでの経緯	2002(平成14)年度 指標化に向けたワーキンググループを設置。 (国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、山形県土木部河川砂防課、美しい山形・最上川フォーラム、特定非営利活動法人パートナーシップオフィス) 不法投棄ゴミの指標化を中心に検討。 2003(平成15)年度 「最上川2003ゴミマップ」を制作、発行し、山形県内の小中学校、公民館、図書館、その他の関係者・団体等へ配布。 散乱(漂着)ゴミの指標化を中心に「検討会」を設置し、フィールド実験を実施するなど、基礎データを収集・分析。 「水辺のゴミ指標評価マニュアル【試行版】」(案)を作成。 2004(平成16)年度 9～11月 マニュアル(試行版)による山形県内での試行調査を実施。
対象	ここでいう指標評価の対象としている「水辺」とは、 ○河川、農業用水路などの流水域周辺 ○湖沼、池などの止水域周辺 ○海岸(島の海岸を含む) などを想定しています。但し、当面は河川の河川敷等を中心に指標評価の手法を確立し、順次検討を重ねて対象域を拡大していくことにしています。
今後の展開	関係者による検討を重ねて作成した「水辺のゴミ指標評価マニュアル【試行版】」を使い、2004(平成16)年9月から11月にかけて、山形県最上川流域や赤川、海岸等の水辺を中心に、河川管理者をはじめ協力団体等を募り、試行的に調査を実施しました。それらの結果をまとめたものが、この「最上川2005ゴミマップ」です。 <small>※この一連の取組みは全国の関係者から高く評価され、2004年7月東京で開催された(第7回「川の日」ワークショップ)において、「グランプリ」を受賞しました。</small>

図 2 最上川 2005 ゴミマップの概要

手法 水辺のゴミの状態を評価したい場所において、下記に示す3つの条件のもとで写真撮影し、基準となる写真と比較する場合と、実際にゴミを拾って、その量に基づいてランクを判定します。

条件1 カメラの焦点距離を35mmとします。
条件2 地面からカメラの高さを約145cmとします。
条件3 カメラのファインダーの上端の位置を地平線の位置にほぼ合せます。

カメラの高さ145cm

ファインダーの上端を地平線に合わせる

基準の写真(次頁に掲載)と比較しランクを決定。(又は、実際にゴミを回収し、その量でランクを判定します。)

	ゴミはほとんど見あたらない ランク 0		ゴミが目立つ ランク 3		ゴミで覆われている ランク 6
	ゴミはほとんど見あたらない ランク 1		ゴミが非常に多い ランク 4		ゴミで覆われている ランク 7
	ゴミが目立つ ランク 2		ゴミが非常に多い ランク 5	ランク 7 以上	ゴミで覆われている ランク 8

指標評価の結果等を集約、整理

2004年秋 最上川流域等の水辺で試行し、 「最上川2005ゴミマップ」を制作しました。

ゴミマップの公表、対策等への活用

図 2 最上川 2005 ゴミマップの概要 (つづき)

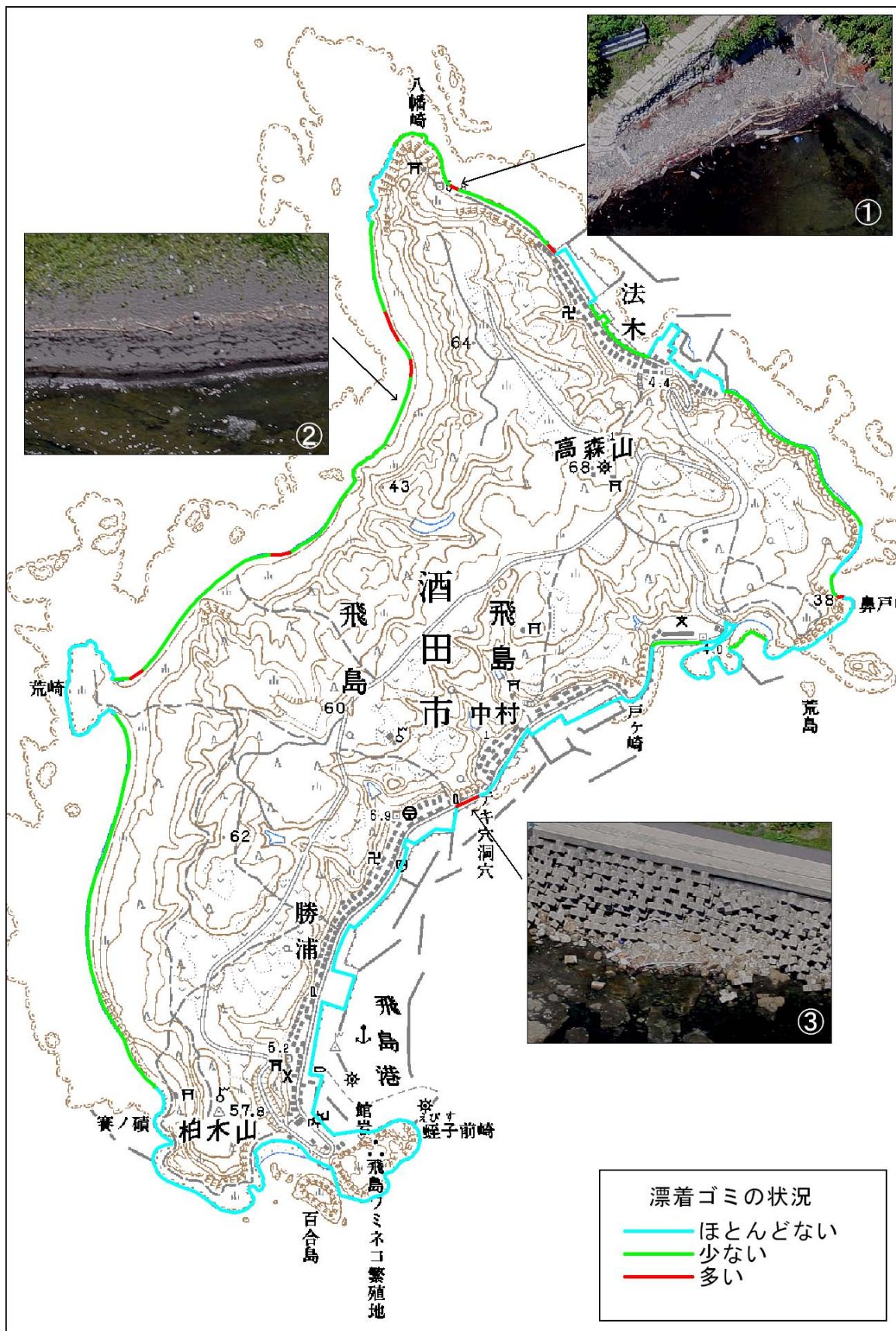


図 3 漂着ゴミの現況マップの試作例

(2007年8月11日撮影の航空写真より作成。海岸線データは第5回海岸線調査(環境省)を参照した。)